

教授 金 森 九 郎 (冶金)

戦後製鐵業不要論、またはこれが隆盛は到底望めないというような悲觀論をしばしば耳にするが、いわゆる技術者の常識から考えるならば、資源的にみて貧困なわが國では、「正に然り」である。

しかるに鐵鋼業が工業の根幹である以上、これなくして如何なる工業も前途の望みがなく、農業國として自立できない以上、わが國は絶望というより外はない。故に日本を再建するためには製鐵業が興らねばならぬ。否、われわれ技術者、研究者の力で如何しても興さねばならないと信ずる。

ここにおいてわれわれの目標とすべき最も重要なことは、本邦製鐵業を我が國情に則した原料問題を中心とし、技術的に裏づけされた確固たる根本方針により思いきつて革新することである。目さきの利害得失のために姑息な手段によつていたずらに生産復興を急ぐようなことは極力避けなければならない。

過去 20 年間に世界に稀な飛躍的發展を示した本邦製鐵業の陰には相當な無理があり、業界は作業の安易な點と時局便乘の經濟觀念とから、主要原料の過半を輸入に依存してきた。これに附隨して製鐵施設や技術にも、外國のものゝ單なる移設と模倣のあつたことは否めない事實であつた。かかる他力本願的な本邦製鐵業が敗戦直後において半身不隨の状態に陥つたことは當然で、そのカンフル注射劑として優良原料が輸入され、辛うじてある程度の生産を維持できたのであつた。ただしこのことは國家百年の計の上からみると、はたして幸福であつたか否かは疑問である。何となれば終戦後 4 周年を迎えた今日、業界はいまだに輸入原料の惰性に引きずられ、いたずらに不利な外國爲替相場の輸入原料による生産復興を第一義的に考え、國內資源の活用を第二義的としている現状である。

こんな不甲斐ない製鐵人の心構えでは、過去の自由貿易時代の實績と、戦時中の技術の退歩とを併せ考えると、ただいたずらに外國より原料を供給したからと云つて、本邦製鐵業が世界的水準にまで達し得るとは到底考えられない。

絶對量的にみて資源の少いわが國において、いつまでも國內資源だけに頼ることは當然不可能ではあるが、この際輸入原料に對する中途半端な甘い考え方を清算して、技術者も研究者も一丸となつて、まず國內原料の活用とこれに對する諸施設の改善に全力を傾注し、とことんまで苦しんで見る心構えが必要ではあるまいか。

ここにおいて始めて日本独自の技術と施設を興し得て、近き將來に輸送條件からみて合理的な東亞の資源をも輸入し得た際には、貴重なこの海外資源を最高度に活用することができると確信する。

終戦後、非常に苦しいと思われた製鐵業界が、賠償問題の緩和と原料の援助によつて、思わぬ好轉をしたために依頼心を起し、安易な道だけを希うようになったことは、大いに戒心すべきことである。

いまこそわれわれはあらゆる努力を盡し自立獨歩の日本製鐵業の確立に邁進すべき秋である。(1949, 10. 10)

グラビヤ

論 說

原料問題と製鐵人の心構え.....金森九郎... 5

総合成果

油脂の新しい應用について.....増野 實... 6

調 査

糧波における誘導體特性の測定.....齋藤 成文... 9

アルギン酸工業最近の進歩.....高橋 武雄... 15

研 究

齒車ポンプの流體力學的理論.....宮津 純... 22

振動法による纖維の彈性率測定.....鳥飼 安生... 26

談 座 會

住宅問題の將來と都市計畫.....建築 一同... 31

實驗ノート

銅の真空熔接法(一色・錦木・古茂田) 30; 熱天秤を利用する金屬粉末の粒度分布の測定(原) 30

トピック

電氣捕鯨船に便乘して(平田)..... 14

速 報

17. 超音波探傷器(高木・丹羽) 13;

18. スラッグ成分の活量を求める試み(松下・坂上) 15; 19. 三層膜半透明膜の應用(荒・久保田) 21; 20. 鋼の安定な防蝕被膜をつくる試み(久松) 22; 21. PbS Photoconductive Cellの製法(江口・村上・大島) 25; 22. 點熔接電流の波形制御(澤井) 25; 23. 分岐する開水路中の流れ(井口) 29; 24. 高壓摩擦係數の新測定法(鈴木) 34; 25. 精紡機スピンドルの運動と危險速度(耳理) 34

生研ニュース・部外活動..... 35

質 疑 應 答..... 35

編 集 後 記..... 36